

月刊「いいテク・ニュース」Vol. 101 2011. 5.17

(株)技術情報センター

「いいテク・ニュース」
～ Ecology & Energy-Techno News ～

2011. 5.17 Vol.101

木々の緑もその濃さと輝きを増し、花達が咲き競っています。

その中でも、一段と美しいのはやはり薔薇。

その美しい姿と甘い香りで楽しませてくれます。

北原白秋の詩に『薔薇二曲』があります。

「白金ノ独楽」より

『薔薇二曲』

一

薔薇(バラ)ノ木ニ

薔薇ノ花サク。

ナニゴトノ不思議ナケレド。

二

薔薇ノ花。

ナニゴトノ不思議ナケレド。

照り極(キハ)マレバ木ヨリコボルル。

光リコボルル。

白秋は、「薔薇の花が咲くのは実に驚くべき一大事ではないか。この神秘はどこから来るのだろう。これを驚く心があればこそ、哲学も詩も自然科学も生まれてくるのではないか...」。そんな思いを込めて、この詩を創ったそうです。

(株)技術情報センター「いいテク・ニュース」第101号をお届けいたします。

今回は2011年6月開催13セミナーと新規取り扱い書籍情報をお届け致します。

最後までお読みいただくとありがたいです。

i n d e x

セミナー情報[2011年6月開催セミナー/13件]
おすすめセミナー Pick Up
新規取り扱い書籍情報(1タイトル)
セミナー及び書籍・調査資料 Web サイトアクセス数 Top10
E-mail 変更・不要について
あとがき

セミナー情報
[2011年6月開催セミナー/13件]

当社主催セミナーを、日付順でご案内致します。
詳細につきましては、各セミナータイトルの下にございます
URLにてご案内致しております。

6月6日(月)-----

新エネルギー（太陽光・風力）利用における系統連系技術と
発電設備設置に係わる法令と諸手続の進め方

<http://www.tic-co.com/seminar/20110607.html>

6月7日(火)-----

エンジニアのためのPID制御技術

～PID制御の基礎事項から、さまざまなシステムでの実施例と
実装のポイント、最適制御による省エネ・コスト削減まで～

<http://www.tic-co.com/seminar/20110602.html>

リチウムイオン電池製造における塗布・塗工技術

～リチウムイオン二次電池用塗工の最適化技術、塗工装置による
塗布技術及び周辺設備、塗工・コーティングにおける検査技術
（装置の活用）～

<http://www.tic-co.com/seminar/20110610.html>

波力発電の現状・事業性と技術開発の動向

<http://www.tic-co.com/seminar/20110613.html>

6月8日(水)-----

粉砕の基礎・機種選定・効率向上と粉砕操作の工学的活用

<http://www.tic-co.com/seminar/20110603.html>

6月9日(木)-----

汚泥減容化技術の開発動向と実処理への経済的な適用

<http://www.tic-co.com/seminar/20110601.html>

ナノカーボンの合成とリチウムイオン二次電池など
エネルギーデバイスへの応用技術

<http://www.tic-co.com/seminar/20110612.html>

6月10日(金)-----

スターリングエンジンの開発動向と応用展開・適用例

<http://www.tic-co.com/seminar/20110611.html>

6月13日(月)-----

シェール・ガス、シェール・オイルをめぐる最新動向と
ビジネスチャンス

<http://www.tic-co.com/seminar/20110609.html>

6月14日(火)-----

リチウムイオン電池、ニッケル水素電池等二次電池からの
レアメタル回収・リサイクルに関する最新動向
～リチウム、コバルト、ニッケル、レアアース(希土類)等～

<http://www.tic-co.com/seminar/20110608.html>

6月15日(水)-----

攪拌・混合の理論及び装置設計と
スケールアップ・最適ミキシング技術

<http://www.tic-co.com/seminar/20110604.html>

6月16日(木)-----

レアアース(希土類)の回収・リサイクルの最新動向

<http://www.tic-co.com/seminar/20110606.html>

6月17日(金)-----

排水処理装置の設計法

～貯留槽・凝集反応槽・濾過器等基本プロセスと活性汚泥処理、

膜分離活性汚泥処理（MBR）、高度処理等における設計の
ポイントと留意点までを平易に解説～

<http://www.tic-co.com/seminar/20110605.html>

各月毎のご案内を、下記 URL にご用意致しておりますので是非一度
ご覧頂けましたら幸いに存じます。

2011 年 5 月開催セミナー

<http://www.tic-co.com/seminar/seminar-05.html>

2011 年 6 月開催セミナー

<http://www.tic-co.com/seminar/seminar-06.html>

開催決定・開催終了分より、随時追加・削除されていきますので、
最新の情報は上記 URL をご参照下さいませ。

おすすめセミナー Pick Up

今回の Pick Up セミナーは

『レアアース（希土類）の回収・リサイクルの最新動向』

です

講 師 横浜国立大学大学院 環境情報研究院
人工環境と情報部門 准教授
博士（工学）

松宮正彦 氏

講 師 東京工業大学 原子炉工学研究所
エネルギー工学部門 助教
博士（理学） 松浦治明 氏

講 師 (独)日本原子力研究開発機構
原子力基礎工学研究部門
環境・放射線科学ユニット
環境化学研究グループ
グループリーダー
理学博士 長縄弘親 氏

講 師 (株)三徳 資材部長 園田千稔 氏

講 師 DOWAエコシステム(株)
環境技術研究所 副所長
博士（工学） 藤田浩示 氏

日 時 2011年6月16日(木) 10:00～16:40

会 場 東京・新お茶の水・総評会館・4F会議室

受講料 49,980円（1名につき）
（同時複数人数お申込みの場合1名につき44,730円）
テキスト代、昼食代、お茶代、消費税を含む

本セミナーでは、イオン液体・熔融塩電解法・抽出剤・エマルションフロー法によるレアアースの回収・リサイクル技術と、中国の希土類関連政策動向・産業構造・リサイクルの現状や価格動向、注目される三徳、DOWAにおけるリサイクルの実際に至るまで、斯界の第一線でご活躍中の講師陣に詳しく解説頂きます。

セミナープログラム

・イオン液体を利用したレアアースリサイクル技術
～廃棄物抑制と使用エネルギー削減に向けて～
(10:00 - 11:00)

- 1．環境調和型溶媒：イオン液体の特徴
 - (1)イオン液体の物理化学的特性
 - (2)イオン液体中での電極活物質の拡散挙動
- 2．イオン液体を利用したレアアース溶解及び濃縮
 - (1)レアアース・鉄族金属の溶解方法
 - (2)泳動技術によるレアアース濃縮
- 3．イオン液体電析によるレアアース回収
 - (1)電解析出法による鉄族金属の分離
 - (2)省エネルギー指向の低温電析
- 4．質疑応答

(松宮 氏)

・ニッケル水素二次電池からの希土類回収プロセス
～溶融塩電解法の適用～
(11:10 - 12:10)

- 1．溶融塩電解法
 - (1)溶融塩電解法の特徴
 - (2)他の方式との比較
- 2．ニッケル水素二次電池の処理と回収技術
 - (1)希土類回収率向上のポイント
 - (2)回収物質の精製
- 3．質疑応答

(松浦 氏)

・ジグルコールアミド酸型抽出剤による希土類元素の抽出・分離と
エマルションフロー法による希土類の回収・リサイクル技術
(13:00 - 14:10)

- 1．希土類資源と放射性物質処理の課題
- 2．環境調和型で効率的な希土類抽出技術の開発

- (1)環境調和型の抽出剤と抽出装置
- (2)抽出プロセスの概要
- 3．ジグルコールアミド酸型抽出剤
 - (1)分離回収能力と他の抽出剤・プロセスとの比較
 - (2)抽出・分離のポイント
 - (3)実施例
- 4．エマルションフロー抽出装置のメカニズムと特徴
 - (1)従来技術の問題点
 - (2)エマルションフロー抽出装置のメカニズムと特徴
- 5．エマルションフロー法による希土類回収・リサイクル
 - (1)希土類の回収能力と他の方法との比較
 - (2)分離回収・リサイクルのポイント
 - (3)適用例
- 6．質疑応答

(長縄 氏)

．中国の希土類をめぐる最新状況と希土類リサイクル技術
(14:20 - 15:30)

- 1．中国の希土類関連政策の動向
- 2．価格動向
- 3．中国における希土類産業構造およびリサイクルの現状
- 4．三徳における希土類リサイクルの取り組みと今後の展望
- 5．質疑応答

(園田 氏)

．レアアースのリサイクル技術
～DOWAにおける希土類リサイクルの実際～
(15:40 - 16:40)

- 1．リサイクルに必要な要素の解説
- 2．レアアースリサイクルの実例紹介
- 3．レアアースリサイクルの問題点の解説
- 4．質疑応答

(藤田 氏)

- 名刺交換会 -

セミナー終了後、ご希望の方はお残り頂き、講師と参加者間での名刺交換会を実施させていただきます。

お申し込み・お問い合わせ等は下記 URL にてお願い致します。

<http://www.tic-co.com/seminar/20110606.html>

新規取り扱い書籍情報（1 タイトル）

新たにお取り扱い致します書籍を、分野別にご案内致します。
詳細につきましては、各書籍タイトルの下にございます URL にてご案内致しております。

--- 《 新材料・新素材 》 -----

ナノ材料のリスク評価と安全性対策

<http://www.tic-co.com/books/10ftb015.html>

セミナー及び書籍・調査資料 Web サイトアクセス数 Top10

2011 年 4 月 1 日から 4 月 30 日までの 1 ヶ月間のセミナー及び書籍の Web ページアクセス数 Top10 を挙げてみました。

..... セミナー Top10

第1位 『太陽熱発電に関する国内外の状況と
技術開発及び取り組み等最新動向』
(4月8日(金)開催) 394 counts
<http://www.tic-co.com/seminar/20110409.html>

第2位 『太陽光発電の事業性を含めた今後の動向と基本設計』
～太陽光発電をめぐる国内外の動向をはじめ、
全量買取制度の内容と方向性、太陽光発電システムの
運用と構築・設計方法まで～
(5月26日(木)開催) 392 counts
<http://www.tic-co.com/seminar/20110501.html>

第3位 - 分野・経験年数不問 -
～技術者が出会う熱に関する問題を解決するための
基礎知識が身につく～
『伝熱の理論と応用』
～熱はどのように伝わり、そしてどう活用または
始末するのか～ (5月24日(火)開催) 385 counts
<http://www.tic-co.com/seminar/20110503.html>

第4位 ～機器開発・設計・研究・技術担当者のための～
『リチウムイオンバッテリーマネージメント回路の
市場・技術とシステム化など応用技術』
(4月22日(金)開催) 373 counts
<http://www.tic-co.com/seminar/20110406.html>

第5位 『レアアース(希土類)の市場・需給・回収・リサイクルの
最新動向』
(2010年10月27日(水)開催) 361 counts
<http://www.tic-co.com/seminar/20101006.html>

第6位 『デシカント空調システムの開発動向と
高効率化・適用のポイント及び性能・コスト評価』
(5月25日(水)開催) 337 counts
<http://www.tic-co.com/seminar/20110502.html>

第7位 『エンジニアのためのPID制御技術』
～PID制御の基礎事項から、さまざまなシステムでの
実施例と実装のポイント、最適制御による省エネ・コスト
削減まで～
(6月7日(火)開催) 328 counts
<http://www.tic-co.com/seminar/20110602.html>

第8位 『植物工場による薬用植物・医療用原材料など
高付加価値物質生産の最新動向』
(4月8日(金)開催) 321 counts
<http://www.tic-co.com/seminar/20110402.html>

第9位 『水処理用膜ろ過プロセスの基礎と応用』
～膜ろ過に必要な基礎知識から膜ろ過対象液の評価、
膜ろ過プロセス設計・運転管理のポイントを含め平易に
解説～
(5月25日(水)開催) 303 counts
<http://www.tic-co.com/seminar/20110504.html>

第10位 『粉砕の基礎・機種選定・効率向上と
粉砕操作の工学的活用』
(6月8日(水)開催) 253 counts
<http://www.tic-co.com/seminar/20110603.html>

今回は第1位に『太陽熱発電に関する国内外の状況と技術開発及び
取り組み等最新動向』、第2位にも『太陽光発電の事業性を含めた今後
の動向と基本設計』がランクイン。

エネルギー供給源の分散化、二酸化炭素を排出しない等の特長により
太陽エネルギー関連テーマがより皆様の関心を集めているようです。

- 第 1 位 『海洋再生エネルギーの市場展望と開発動向』 149 counts
<http://www.tic-co.com/books/11sta066.html>
- 第 2 位 『スマートハウスの発電・蓄電・給電技術の最前線』 113 counts
<http://www.tic-co.com/books/2011t778.html>
- 第 3 位 『2011 年スマートフォンの部品・構成材料の市場』 108 counts
<http://www.tic-co.com/books/2011z196.html>
- 第 4 位 『コスト見積の実際』 102 counts
<http://www.tic-co.com/books/20110481.html>
- 第 5 位 『電子ペーパーの最新技術動向と応用展開』 101 counts
<http://www.tic-co.com/books/2011t779.html>
- 第 5 位 『ロール to ロール技術の最新動向』 101 counts
<http://www.tic-co.com/books/2011t782.html>
- 第 7 位 『自動車用プラスチック新材料の開発と展望』 98 counts
<http://www.tic-co.com/books/2011t777.html>
- 第 8 位 『ファインケミカルマーケットデータ 99 (1・2 巻)』 94 counts
<http://www.tic-co.com/books/1999s733.htm>
- 第 9 位 『表面処理技術ハンドブック 』 90 counts
<http://www.tic-co.com/books/01nts006.htm>

第 10 位 『化学・材料系 勝てる！特許実務』

84 counts

<http://www.tic-co.com/books/11sta067.html>

第 1 位に 『海洋再生エネルギーの市場展望と開発動向』 がランクイン。

東日本大震災を経験し、エネルギー源の多様化の一環として、再生可能エネルギーへの期待が高まる中、最大のポテンシャルを持つ「海洋エネルギー」への関心が多くのお客様のアクセスを生んでいるのでしょ。

この集計データが、皆様の業務に少しでもお役に立てば幸いです。

E-mail 変更・不要について

E-mail アドレスが変更になった場合は、件名に 『アドレス変更』 とご記入頂き、本文には、

旧 E-mail アドレス

新 E-mail アドレス

をお書き添え頂きました上、このメールにご返信下さいますようお願い申し上げます。

今後このご案内メールが不要でございましたら、件名に 『不要』 とご記入頂き、本文には、

E-mail アドレス

をお書き添え頂きました上、このメールにご返信下さいますようお願い申し上げます。

下記 URL でも承っております。

<http://www.tic-co.com/merumaga.html>

このメールの返信にてお問い合わせをされますと、処理の都合上、ご回答までに一週間以上頂く場合がございます。お問い合わせは info@tic-co.com までお願い致します。

あとがき

『薔薇』

冒頭にも白秋の詩を掲げましたが、今回は「花の女王」『薔薇』についての豆知識をお届け致します。

「神の祝福」「不可能」から「喝采」へ

「Under the Rose」(バラの花の下)は「秘密に」

「Life is not rose」は「人生は楽しいことばかりではない」

「A rose is a rose」は「物事の本質は変わらない」

「come up roses」は「うまくいく」

「be not all roses」は「気楽なことばかりではない」

「gather roses」は「快樂(人生の歡樂)を求める」

「roses and sunshine」は「すばらしいこと」

「Run for the roses」は優勝馬にバラのレイが掛けられることから、「ケンタッキーダービー」

とバラに関する慣用句は多く、意味深いものがあります。

「the blue rose」には「神の祝福」「不可能」の意味があり、青い色素を持つ原種バラは発見されていないため、青いバラ作出は不可能とされてきた。

しかし、サントリーでは研究を重ね、バラから独自の青い色素を発見し、遺伝子改良による「青いバラ」が誕生した。

そもそも、なぜサントリーが「青いバラ」を開発することになったかという、「青いバラ」は「不可能の代名詞」とも言われ、花の開発者にとってはシンボリックな存在であったため、あえて目標に掲げ“挑戦”することとなった。

また、存命であった会長の佐治敬三が、ウィスキーづくりを学んだスコットランドに恩返しをしたい、という思いもあり、イギリスの国花である「バラ」、しかもスコットランドのシンボルカラーである「青」のバラの実現へ向けての第一歩を踏み出すこととなった。

「青いバラ」は英語で「喝采」の意味を持つ「APPLAUSE」（アプローズ）と命名された。

人生のさまざまな局面で、夢をかなえた人、夢に向かって挑戦する人を勇気づけ、拍手喝采を贈るという想いを込められているという。

出典：サントリー公式ブログ
「サントリートピックス」より

「喝采」の名を持つ青いバラの画像はこちらから
<http://www.suntorybluerose.com/>

クレオパトラ

ローマ人がバラを愛好するきっかけを作ったのがクレオパトラです。

クレオパトラは大のバラ好きで、ローマからシーザーやアントニウスをエジプトに迎える時、宮殿全体をバラで飾り、廊下にはバラの花びらを厚く敷きつめてもてなしました。

また、バラの花びらを浮かべた「Rose bath」、膝の高さまでバラを敷いた「Rose bedroom」当時は金の何倍もした「Rose water」も愛用したと伝えられています。

クレオパトラはバラそのものも、もちろん好きだったのでしょうが、バラを小道具にして、ローマ帝国の英雄たちを手玉に取ったのでしょうか。

膝の高さまでバラを敷きつめた「Rose bedroom」では歩くたびにズボッ、ズボッ、の感じで思うように進まず、魅力的なクレオパトラに辿り着くまで大変だったかも…。

時空を越えて想像をかき立てられます。

クレオパトラの名が付いたバラの画像はこちらから

<http://matome.naver.jp/odai/2130069477154244701/2130077404255041703>

また少し変わった名前が付いていて、クレオパトラのイメージとしてピッタリなのが 和名：イントゥリーグ 英名：Intrigue ですね。

イントゥリーグとは動詞として[...に対して]陰謀を企てる、術策をめぐらす、名詞で陰謀、不倫、の意味があります。

意味深な名前のバラの画像はこちらから

http://www.noibara.net/encyclopedia/floribunda_rose/encyclopedia-163.html

名は体を表す

「薔薇はたとえどんな名前でも呼ばれても甘く香るって本で読んだけれど、絶対にそんなことはないと思うわ。薔薇が薊(アザミ)とか座禅草(スカンク・キャベツ)とかいう名前だったら、あんないい香りはしないはずよ...」(LM モンゴメリ「赤毛のアン」松本侑子訳)

と赤毛のアンは言っています。

そうです。バラはそれぞれの特徴にピッタリの名前が付けられており、その誕生にストーリー性や深みが感じられます。

以下に興味深い名のバラを挙げておきます。(敬称略)

ジョン・F・ケネディ

マリリン・モンロー

ダイアナ元皇太子妃

...品種名には、生前命名された「プリンセス・オブ・ウェールズ」と、死後命名された「ダイアナ・プリンセス・オブ・ウェールズ」の2品種がある。

オードリー・ヘプバーン

ポール・マッカートニー

...品種名は「ザ・マッカートニー・ローズ」。

ジャンヌ・ダルク

マリー・アントワネット

ナポレオン・ボナパルト

レオナルド・ダ・ヴィンチ

グレース・ケリー

...品種名は「プリンセス・ドゥ・モナコ」

皇后美智子

...皇太子妃時代に捧げられた「プリンセス・ミチコ」と皇后になった後捧げられた「エンプレスミチコ」の2種がある。

皇太子妃雅子

アロマテラピー

つくばエクスプレス

...首都圏新都市鉄道つくばエクスプレス線(旧称:常磐新線)の名に因んで、石岡市で開発されたバラの品種。

ストロベリーダイキリ
...カクテルの名にちなむ。

ティファニー

ステンレス
...品種名は「ステンレス・スティール」。

レオニダス
...ベルギーのチョコレート企業にちなむ。

ウェッジウッド
...品種名は「ウェッジウッド・ローズ」

画像をご覧になりたい方は [バラ](#) [レオニダス](#) の要領で検索して下さい。

私のおすすめは「ステンレス・スティール」。
画像はこちらから
<http://blogs.yahoo.co.jp/pokepoke1124/32463388.html>

酒とバラの日々

DAYS OF WINE AND ROSES
～酒とバラの日々～

1962年
作詞 / ジョニー・マーサー Johnny Mercer
作曲 / ヘンリー・マンシーニ Henry Mancini

同名映画の主題曲で、1962年のアカデミー歌曲賞に選ばれている。

映画では歌詞はなく、曲も物語のバックでそれとなく挿入されている程度のもの。

しかし映画は知らなくても曲は誰もが耳にしたことがあるスタンダード・ナンバー。

「酒とバラの日々」というテーマと美しいメロディーから受けるイメージはお洒落で優雅な大人の雰囲気。

でもこの映画は、若い夫婦がアルコール依存症へと堕ちていく、当時の社会問題を真っ向から捉えたシリアスな作品。

最初は夫がアルコール依存症になり、そのうち妻も引きずり込まれてアルコール中毒に。

夫は努力のこいがかあって中毒から抜けられるが、妻は中毒から抜けられずに別れていく。

バラ園で働いてやり直そうとするが、やがてまた禁断の誘惑に負け…。

この扉を越えてしまったら、再び戻れないと知りつつ、扉をくぐってしまう心の弱さ…。

この曲を作詞したジョニー・マーサーも大変な酒好きで、酒乱の気もあり、酔うと決まってクダを巻き、相手に絡み、大騒ぎになり、周りの人に嫌われていたそうです。

だが翌朝になると、絡んだ相手にバラの花束を贈って非礼を詫びていたといいます。

酒グセは悪かったみたいですが作詞の実力は相当に高く、「酒とバラの日々」以外にも、シャンソンの「枯葉」の英語詞、「シャレード」、「ムーン・リヴァー」、「サテンドール」と多くのヒット曲を書いています。

以下は「酒とバラの日々」の詞です。

Days of Wine and Roses

The days of wine and roses

laugh and run away like a child at play
through a meadow land toward a closing door,
a door marked "nevermore" that wasn't there before.

The lonely night discloses
just a passing breeze filled with memories
of the golden smile that introduced me to
the days of wine and roses and you.

この歌詞の中に「a door marked "nevermore"」とあるのはアル中患者が一度越えてしまうと二度と戻れない扉の意味と「或る時間」を境に二度と戻れないという意味があるのかも。

「あの春の日(3.11)がなければ楽しい日々が続いていたのに…」と、感じておられる方も多くいらっしゃるかも…。

歌詞は受け手側が置かれている状況に置き換えて解釈し感じるもの。

短い詞ですが、深みを感じます。

他のマーサーの作品もじっくり聴きたいものです。

あとがき全体を通しての出典：フリー百科事典
『ウィキペディア (Wikipedia)』

今回のあとがきは「薔薇」としたことで広がり、深みがあり過ぎて難渋しました。

消化不良気味でしたので、また何年後かに違う側面から「薔薇」を取り上

げたく思います。

薔薇逸話

調べし夜の

JAZZ(歌)とWINE(酒)

五臓六腑に

沁み渡りゆく

竺見

最後までお読みいただきありがとうございました。

(株)技術情報センター メルマガ担当 白井芳雄

本メールマガジンのご感想や本メールマガジンへのご意見・ご要望
等 melmaga@tic-co.com まで、どしどしお寄せ下さいませ。

////////////////////////////////////

『 - その先の、深い情報へ。 - 』

(株)技術情報センター

〒530-0038 大阪市北区紅梅町2番18号 南森町共同ビル3F

[TEL] 0120-06-0140 / 06-6358-0141

[FAX] 06-6358-0134

[URL] <http://www.tic-co.com/>

[E-mail] info@tic-co.com